

令和4年度 第2回行政改革推進委員会 会議記録

■日 時	令和4年7月25日（月曜日）16時00分～17時30分			
■場 所	与謝野町役場 3階 会議室2			
■出席委員	◎伊藤 伸 委員	○西川明宏 委員	○山添謙三 委員	佐賀利裕 委員
	注) ◎会長、○会長代理（互選により選出）			
■事 務 局 (企画財政課)	小池大介 課長	小谷貴儀 主幹	渡邊稔之 主任	廣谷章彦 主任

**開会（午後4時00分）**

**（1）委員委嘱**

町長から各委員に委嘱（委員名簿：資料1）

**（2）町長挨拶**

与謝野町は合併後16年が経過し、この間、行政改革推進というのは極めて重要な政策の柱でした。そうしたことから行政改革大綱を策定し、その時々状況を鑑みながら議論し、その議論を受けて、私どもも実行に結びつけていくことができたものや、できなかったものがあるという状況になります。

先般、これまでの行革の議論を受けて、私どもに答申をいただきました。この答申の中身につきましても、行政改革というのは非常に重要な視点であるということであるから、私が率先して、行政改革の旗を高く掲げていく必要があるといった指摘もいただいたところでした。これまでの行革の議論を受け、今期の委員会におきましても、皆様方のご指摘をいただきながら、共に与謝野町の持続可能性というものを担保していきたいと思っております。実のある行政改革推進が図れるよう、我々としてもしっかりと努力していきたいと思っておりますので、皆様方の温かいご指導ご鞭撻をよろしく願います。

**（3）自己紹介**

各委員、事務局から自己紹介

**（4）行政改革推進委員会について**

-----（事務局から資料2を説明）-----

**（5）会長、会長代理の互選**

委員の互選により、会長に伊藤委員、会長代理に西川委員、山添委員を選出

## (6) 委員会への諮問について

山添町長から伊藤会長に諮問（諮問書：資料3）

## (7) 会長挨拶

前期もそうでしたが、ざっくばらんに話しができるようにしていきたいと思います。いろいろな審議会に参加していますが、時々形式的に、事務局である行政がある程度シナリオを作って、アリバイ作的にやるということがありますが、与謝野町のこの委員会はそうではなくて、だからこそ、事務局もできないことはできないとはっきり言っているのも、そういうことも含めて一緒に考えていく場を、この委員会の中に持たればいいなと思っています。今年の答申を出したのが7月4日ですが、毎回出される答申が厳しいなと思っています。特に町の中におられるお二人から鋭い指摘があると感じていますが、これはとても愛のある指摘だなと感じていて、繰り返しになりますが、いろんな自治体の審議会に出てきて委員が出席していることに意義があるというような人たちがいるのも確かなんですけど、お二人はせっかく時間を使うんだからということで、本質本音の話をしていただいているなと思っています。ですから、答申もあらかじめ予定されていた中身ということではなくて、委員会が終わった後に私がたたき台を作って皆さんに諮って完成させているので、事務局からすると何が出てくるのかわからないという状態、こういう進め方は実はそんなに多くないと思っています。このようなやり方は今後も継続していきたいと思ったり、答申に書かれていたように問題意識は事務局も同じようにお持ちになって、次にやるのは、この問題意識をどうやって具体的に実行に移すかっていうところ、この与えられた任期3年の間はまさにこれまでやってきた中身をどれだけ実行に移し、具体的に形にできるかというところを重視できるのかなと思っています。よろしくお願いします。

### ――町長との意見交換――

（西川委員）前回、前年度が終わったということで3点について答申させてもらいました。その中でも、3番目の「山添町長から」というポイントを明記させてもらったということですが、もっとも行政の厳しさなどを表に出してお知らせしていただきたい。

（山添町長）令和4年7月4日にいただきました答申の中身につきましては先ほど伊藤会長や西川会長代理がおっしゃったように、非常に我々にとっては厳しい指摘でした。その指摘をどのように行政運営に活かしていくのかということをお私なりにも考えてきたところなんです。理事者と課長級が一堂に集まって議論し、政策の課題であったり論点を整理し判断をしていく機能のまちづくり本部会という本部会がありますが、これ実はまちづくり及び行政改革推進本部会ということになっています。これまでのまちづくり本部会においては、行政改革の推進という観点で薄かったということから、まちづくり本部会において定期的に行革大綱の進捗度合いを確認していくということで、早々に議論ができる枠組みを作ることができたのではないかなと思っています。行革大綱に基づく進捗状況や行革に非常に密接に関連する公共施設マネジメント推進委員会での議論というものを、このまちづくり及び行政改革推進本部会で共有し論点を明確にした上で、一人一人が行政改革というものを真に実のあるものにしていくために取り組んでいきたいと申し上げたところです。今後、そういう意味で言いますと、枠組みとして行革を推進していくということが非常に強く前に出る会議体になっていくのではないかなと思っていますので、これが皆様方からのご指摘を踏まえた上での一歩ということで理解いただけたらいいのかなと思っています。いずれにせよ私も皆様と同様の問題意識でありますし、この行革を推進していくということが、住民の利益に繋がるという意識を共有させていただきながら、実のある、本当に成果のある取り組

みにしていきたいと思っています。

（西川委員）会議の中でも行革の進捗状況を専門的にチェックをする機関が必要ではないかという議論もあった中で、早速まち本の中でそういう機能を持たせるということで動いてもらっていただいて本当にありがたいと思います。頑張っこのクールで成果を出していきたいと思います。

（山添委員）コロナ禍になる前のことだと思いますが、事務事業評価を WEB で 1 回やってみたらどうだという話があったと思います。町民の関心を振り向ける手法としては、1 回チャレンジしてみてもいいのではないかと思います。説明者はお困りになることもあろうかと思いますがやはり町をよくするために、説明者や私達が建設的に議論することが町民にどう映るのかということを検証してみるのも一つの手法かなと思います。第 2 クールに入ってからそういったことも時間などが許せばチャレンジしてみることを事務局で検討していただければと思います。

（伊藤会長）構想日本では事業評価を WEB 配信を基本にしているということもあるのでまさにそこは見せていくということが重要なと思います。

（佐賀委員）7 月 4 日の答申を受けて、まちづくり本部会議といった行政の機能の中で集中管理する機関が作られているというのも素晴らしいと思いますが、この機関が具体的なマイルストーンを持ってどのように進捗管理されているのでしょうか？

（山添町長）行政改革大綱に位置づけられている柱に基づく施策についてどのような進捗状況があるのかということや年に数回、認識を共有するといった程度でありましたが、それをもう少し頻繁に評価であったり、論点整理をしていくことによって、直ちにその会議で評価を出していくということではないかもしれないが、行革というものが各課でどのように推進をしているのかということも含めて共有していくということが、組織全体の行革に対する風土を作っていくことになるのではないかとということで、取り組み始めていこうとしているところです。具体的にどのようにそれを運用していくのかという点については、しっかりとした運用基準を持っているわけではないので、これからやりながら考えていくことになると思いますが、現時点でそういう方針を持ったということでご理解いただきたいと思います。

（伊藤会長）町の中で一番大きい計画として総合計画というものを作っています。また行革大綱については我々が担当しましたが、総合計画を進めていく中で財政面であったり、実際にその計画を実現するために事業を今のままやっていたらいいのかわかということをチェックする、そして例えば財政面ではこれぐらい削減をしたほうがいいのか、事業を少し削ったほうがいいのかというようなことをやっている。総合計画を走らせるにあたり行革的な視点を作ることによって、その計画を実現していこうということになるが、行革の計画は細かくチェックできていなかったと感じている。先ほどの町長のお話にあったように、この外部で言うだけでは変わらないので、頻繁にある会議の中で進捗管理することが非常に重要であると思います。前回の答申の中で、役場職員の意識改革が大切ということが入っていた。こういう行政評価ということが与謝野町ではあまりやってこなかったのも、負担感のほうが強いのということがアンケートの結果にも出ている。そこを「負担は感じるかもしれないが、結果的にやってよかった。」という状態を作っていくことが今回のクールの課題だと思っています。

（西川委員）これから公共施設の統廃合を進めていかないといけない。とても大変なことではあるが、一番のベースになるの

はやはり行財政改革ということになると思います。継続して使えるだとか、皆が使いやすいようにといった考え方もあると思いますが、色々な切り口で考えると困惑してきます。ですから、1番は行財政改革ということを一貫して説明された方がよいと思います。住民さんに行政改革をしていかななくてはならないということを事あるごとに町長が広告塔となって話していただくと、そういう雰囲気根付いていって議論が進めやすくなるのではないかなと思いますのでよろしくお願いします。

(山添町長) 承りました。

――町長はここで退席――

(小池課長) 先日、複業人材を任命させていただきました。無料報酬ですが、自分のスキルを高めていきたい、行政に何らかの役に立ちたいという方が全国的にはいらっしゃる、前年度は広報広聴に関わる戦略を作るために民間で広報に長けている方2名にお世話になり、今年度は業務改善と企業誘致の関係で2名を任命させていただきました。業務改善担当の方は、「全国的にDXを進めていく必要がありますが、DXという前に役所内でまず業務改善が必要ですね。」と仰っておられ、また、「無駄を省いていって誰のために仕事をしているのか、それが整理されていたらひょっとしたら時間的な余裕もできたり、仕事の余裕ができたり、それを住民サービスに傾注していく、そういった仕組みがやっぱり求められてくるんだよね。」ってということで、「私が入ったら、職員からは嫌がられるかもしれないが、やって良かったなと後から言われるように努めていきたい。」ということも仰っていました。先ほど会長が仰られたように、職員がやらされている感ではなくて、一つの業務を見直していく、無駄を省いていくことが、やってよかったな、汗をかいてよかったな、住民のためにこれが変わっていくんだよねっていう、見えることが大事なんだろうなと思っていますので、言うは易いですけど、そういう意識を持って改善に努めていきたいと思います。

## (8) 令和4年度事務事業評価の取組について

----- (事務局から資料4-1、資料4-2を説明) -----

(伊藤会長) 事務評価シートですが、過去にどういった評価、指摘があったのかを確認できる方が、評価する側からすると議論しやすい。例えば2年前に受けた指摘と同じ指摘となってしまう場合もある。国や自治体では、過去に対象になっていたら、どういった指摘があったかということ、それを踏まえてどういった改善をしてきたかという項目まで作っています。

(廣谷主任) 今から原課に新たに資料の作成は求めづらいので、過去のシートをそのまま参考資料として準備することはできます。

(西川委員) そもそも日々その事業をするときに指摘があったり評価された内容を常に意識して事業を行うべきだと思うので、本来であれば前回の評価やその結果を受けてこうしましたということは常に用意されているはずで、それがないということは負担にもなるし、何を意識して事業をしているのかという問いかけにもなるので、1回評価したものについては、負担になるかもしれないが整理してもらおうという意味で準備してもらおう方がよいと思います。

(廣谷主任) 簡易的なアンケートを職員に取って事務事業評価についての負担感を確認したところ、9割ぐらいが負担があるとの回答でした。西川委員が仰られることが本来のところですが、原課に小出しには依頼しづらいところです。

(佐賀委員) メンタルの問題もあるのかもしれないし、物理的に業務量が増えているということもあるのかもしれないが、今これを出してるのは業務効率化を含めた改善であって、このタスクは必要なんです。増えていったとしても、それはやり切らないと

いけなくて、これをやらないとその後楽にならないんです。そういうビジョンをみんなが持たないと職員が動かないので、そういうものだと言い切らないといけないと思います。

(小池課長) 福知山公立大学の杉岡先生という方が行革にも総合計画にもありとあらゆる与謝野町の行政マネジメントにお世話になっていますが、あっちもこっちの行革にも携わっておられて、福知山がこの業務改善、事業評価をされていますがやはり8年も9年もかかってやっとそういう風土が作られてきた。今、職員には重荷になっているのかもしれないけれども、それが先ほどの業務改善と同じように、これは仕事を減らしていく一つのツールにもなって、それによって空いた時間でもっとよいサービス展開ができたのだとか、そういうふうにつながっていくと思います。そういった成果が見えてきたときには、これが長い間苦労はあっても、この風土になっていって、業務改善は通常の業務の中に溶け込んでいくはずなので、そこをやはり理解していただく。自分のためにやっていくんだ、住民のためにやっていくんだということを各職員がその意識に立たないと、絶対できないだろうと思っていますので、そこを口酸っぱく企画財政課としては、言っていく必要があるんだろうなと思っています。

## (9) 公共施設等マネジメント推進委員会について (情報共有)

----- (事務局から資料5を説明) -----

- ・ 行政改革推進委員から西川委員に、また、有識者として、川勝健志氏 (京都府立大学公共政策学部教授)、青山公三氏 (京都府立大学名誉教授)、杉岡秀紀氏 (与謝野町行財政経営マネジメントアドバイザー、福知山公立大学地域経営学部准教授) に参画いただくことを報告

(西川委員) 委員は3地域で均等に選出されているのでしょうか？

(小池課長) 大体均等になっています。

(西川委員) このマネジメント推進委員会は、今後、与謝野町の中で議論をする小さなシミュレーションになるんじゃないかと感じています。先生方に、基本的な考え方を述べていただいて、みんながその意識を共有した中でそれぞれのエリアの気持ちも多少なりともその中に出てくるでしょう。だけれども、そんなことを言っていたらあかんでということが小さな会議体の中で醸成されれば、それと同じことをエリアを広げてやっていけばスムーズにいっきかけづくりにならないかなと思っています。

(小池課長) どの委員の方も自分の地域のエゴだとか、その施設固有のものの考え方というものを持っている方ではなく、全体を俯瞰して物事を見渡してご意見がいただける委員さんだろうなと思っています。

(西川委員) どの施設にしても特定の思いがある人といっても一部の人だと思います。その他多くの住民はそうではない方なので、そういう意味ではそういう方々が集まって全体的な話し合いでまとまるのであれば、公共施設の統廃合を進めていく中でよく似た議論になっていくのではないかなと思います。

(伊藤会長) 1年間で結論を出すのは私の経験からも無理だと思います。今やっている業務の中では、公共施設の見直しや事業評価も含めて無作為抽出という手法を使っていて、ランダムに選んだ人たちに集まってもらって、具体的に議論してもらうという形を全国百数十カ所で行っています。西川委員が仰ったとおり、コアに使用している人はごく少数で、それほど使用していない人の方が圧倒的に多い。でもこの人たちの税金によってその施設を運営されているからこそ、そういう人たちと一緒に議論していくことの必要性があるので3回4回と集まって話し合いをしていくというやり方を採っています。

(小池課長) マネジメント委員会が動き出しましたら、こちらの委員会にも情報提供させていただきます。

#### **(10) その他 意見交換など**

特になし

#### **(11) 次回委員会の内容・日程の調整**

別途調整する

(伊藤会長) よろしいでしょうか。それでは、以上で今年度の第1回目の行革推進委員会を終了させていただきます。